

2 陸上水槽におけるアオリイカの飼育

多和田 真 周

1 材料と方法

1974年10月に川平湾内において、建干網で捕獲した。アオリイカ、♂130g、♀220g（雌雄判別は外套背面表皮の紋様が丸の斑点があるのを♀、横筋の青線があるのを♂）2尾を供試した。飼育水槽は屋外コンクリート9トン（2.0×4.5×1.0m）水槽を使用、注水は2ヶ所から適当量注水した。水槽の中央にエアーストン1個設置、排水は底部の方から行なった。投餌は午前10時に1日1回だけ行なった。餌料は投網で捕獲した、ボラの稚魚、ヤクシマイワシ、その他稚魚等を大きさが約10cm未満のものは丸ごと、10cm以上のものは半分に切って投餌した。

2 飼育結果

餌料は生き餌より、死餌の方がほとんどであった。餌料投与と同時にイカ特有のすばやい摂餌動作を示し、特に生き餌に対して顕著であった。餌の動きがない場合（水槽底へ沈んだ餌料）でも良く摂餌したが、冷凍期間の長い餌や鮮度の悪い餌等は捕食はするが途中で摂餌をあきらめてしまうようであった。飼育結果は表-1及び、図-1に示した。投餌量（摂餌量）11月、1,111g、12月、1,370g、1月は608gであった。12月28日に計測したときに♂を弊死させたため、1月の投餌量はその分だけ減少している。図-1からもわかるように、アオリイカは水温下降期でも摂餌し、充分成長する。投餌量が比較的少ないのは、アオリイカが餌を捕食してから食べ終わるまでに時間がかかりすぎるので、多量に投餌できないためである。投餌量を増やすためには少量ずつ、回数を多くしなければならない。成長度は♂が2ヶ月間飼育で150gの増重量となり、2.15倍、♀が3ヶ月間飼育で増重量が325gとなり、収容時から2.47倍に成長している。

表-1 アオリイカ養成飼育経過

	水 温	増 重 量		摂 餌 量	増肉係数	餌料効率
		♂	♀			
昭和49年11月	(月平均) °C 23.2	75 (g)	130 (g)	1,115 (g)	5.43	0.18
" 12月	21.7	75	100	1,370	7.82	0.12
昭和50年1月	20.0	-	95	608	6.40	0.15
合 計	21.7	150	325	3,093	6.51	0.15

図一1 アオリイカ養成中における水温と体重の変化

